

アートとダイバーシティについて

人権擁護委員 藤林 文夫

ダイバーシティは、日本語では『多様性』と言われています。最初は、国籍、人種、性別、年齢の違いを指していましたが、現在は、障害児・者、LGBT等も含め幅広い概念になっています。私たちが住んでいる地域社会では、価値観の違う人々が一緒に住んでいますが、お互いがその『多様性』を認め合って生活をしていると言えるでしょうか。

『多様性』を理解するには、文化・芸術の世界が一番わかりやすいと思います。アーティストは、『多様性』、価値観の違いを最も明確にしていると思います。アーティストは、自分の内的世界を作品として表現します。従って、私たちはその作品をとおしてアーティストとコミュニケーションをすることができます。私たちは、アーティストの全く違った価値観の世界に触れることで、自らの創造性の発揮につなげることができるのです。

私たち一人一人が、価値観の違いで差別されることなく創造性を発揮することができれば、地域社会の色々な課題を解決することが可能になります。

例えば、未来を担う子供たちのいじめ問題が後を絶ちません。それは、子供同士のグループ内の価値観と違う価値観を持つ子供がいじめの対象になるからです。教育現場にアーティストを派遣して子供たちと一緒に創作活動をする事で、子供たちは、アーティストが自分たちと全く違う発想で作品を作ることを体験し創造性を身につけることができます。

結果として、子供のいじめ問題の解決だけでなく、学力向上にも繋げることが可能になり、子供たちにとって多様な生き方を認め合うことができると思います。

ダイバーシティは、市民一人一人が自らの能力を平等に発揮することであり、同じ考え方をする人が必要なのではなく、違った観点からの発想、『多様性』を認め合うことで地域の課題を解決し、人間性豊かな地域社会の実現に繋げることだと思います。

そのためにも、横浜からダイバーシティのムーブメントを起こすことが大事であります。

